

電池管シリーズ3

「チェックメイトキング2こちらホワイトロック」
甦るコンバット無線機 BC-611

70年前のトランシーバBC611レストア完成しました

主な特徴

周波数は3～6MHzの送受水晶1ch固定AM方式
受信部は電池管5球の高1中1、送信部は14回路2接点のスライドSWで受信回路を
送信回路に切替える。
電源はA1. 5v B103Vでロッドアンテナを伸ばすと電源on
通達距離は1マイルほどです。

第二次世界大戦中に小隊で使用された近距離連絡用の無線機だそうです
戦後に日本でも警察や警察予備隊でも使用され、国産のJBC611も製作されたそうです。

レストア内容

周波数を7195KHzに変更

アンテナコイルとタンクコイルを7MHz用に自作する
水晶は 7195KHzと7650KHzはサトー電気で購入

コンデンサー、抵抗はほとんど取替(Cは絶縁低下、Rは抵抗値が2-3割高い)
電源sw接触不良のため取替、送受切り換えswの破損接点もリレー接点を利用して修復

B電池は105VのためDCDCコンバータを製作(単1乾電池3個4.5Vで105V出力)
外部アンテナターミナルを製作して固定アンテナを接続可能とした。
(ターミナル出力は20mW程度でした、)

テスト結果

3月1日16時ごろJA3OMK中田OMが59++で聞こえていたので
試しに呼ぶこと数回、雑音の中なんとか受信していただきました、中田OMの耳の良さに感謝
その後7L1ETS大久保OMよりこちらも受信できていたとのレポートいただく)



1945年製 BC611



1945年の表示



電池管5球の内部



右3885KHz用オリジナル部品



左7195KHz用送受水晶と自作したANTコイルとタンクコイル



C・R類の取替と14回路2接点スライドSW部



スライドSW修復(リレー接点利用)



自作DC-DCコンバータ
(単1電池3個 4, 5Vで105V出力)



外部アンテナターミナル装着と内部

